

# 礼拝さいこう

## 教会の学びあい 研修から励ましと力を受けて

バプテストの群れは、礼拝、教会形成において信徒の参与を大切にしてきました。そのために教会では共に学びあうことに重きがおかれています。皆様の教会・伝道所でも、さまざまに取り組まれているのではないのでしょうか。今号では、教会での研修の取り組みによる恵み、連合、連盟の研修会に参加され、励まされていることを中心にご紹介します。ほか、教派を超えて行われている賛美歌の取り組みもご参考ください。

### 賛美あふれる会堂

杉山修一（山形）

山形キリスト教会は、近くに山形大学のキャンパスがあることもあって、1958年の設立当初から、山形大学教育学部・特設音楽科の学生が少なからず出入りしておりました。また、教会形成においても教会音楽が大切に位置づけられていたため、山形教会は教会音楽に恵まれ、賛美の満ちあふれる教会としての歴史を歩んできました。

現在、教会員数は35人とそれほど多い人数ではありませんが、その半数近くが聖歌隊員です。聖歌隊奉仕のときに15人ほどの聖歌隊員が前に出ると、会衆席がスカスカになり、チョッピリさびしく見えてしまうほどです。

小さな教会はどこでもそうだろうと思いますが、少なからぬ人が教会の奉仕を一人で何役もこなしてくださっています。聖歌隊員で

### Index

- 1) 2) 教会の学びあい 研修会から励ましと力をうけて . . . . . 杉山修一（山形）
- 2) 点字版『新生讃美歌』長きに亘るご奉仕に感謝！
- 3) 新しい歌を歌うために . . . . . 藤井秀一（花小金井）
- 4) 5) 礼拝奏楽の取り組み . . . . . 石渡路子（清水栄光）
- 5) 「この日主イエスは復活された」訳詞から学ぶ . . . . . 小林亜矢子（青葉）
- 6) 讃美歌・聖歌懇談会報告 7) 『新生讃美歌ブックレット』書評紹介
- 8) 『新生讃美歌ブックレット』を用いた研修会報告 . . . . . 青山祐一（東北連合音楽委員・山形）
- 9) 賛美歌のことばの意識化から . . . . . 武 章子（上尾）
- 10) 『新生讃美歌ブックレット』を用いた研修会のオススメ . . . . . 白井由季子（百合丘）

あり、また教会学校の奉仕も受け持ち、執事、礼拝・音楽委員、伝道委員、教会教育委員、壮年会や女性会の役員、食事当番、掃除当番といった諸奉仕を、二つ三つ掛け持ちで担ってくださっています。

聖歌隊練習は、礼拝後の茶菓で一服した後、午後0時30分～1時の30分間、毎週行われます。準備不足となれば、土曜日の午前中に招集がかかったり、奉仕日当日、午前9時30分からの朝練習が入ります。月1～2回まとめて長時間練習するのではなく、毎週の短時間練習の積み重ねが長続きのコツのようです。主日礼拝の中での聖歌隊の賛美奉仕は、毎月一回が原則です。音取り、声出し、声合わせに勤しみながら、平均年齢70歳ほどの聖歌隊は、モチベーションを高められつつ、賛美奉仕を楽しんでいます。

山形教会では、連盟や他教会からこの方と思う外部講師をお招きして、毎年、教会単独で聖歌隊研修を行っており、講師の先生方には、主日の音楽礼拝やチャペルコンサートの御奉仕をお願いしています。お昼は山形名物の芋煮など、美味しい郷土料理を御賞味いただき、心づくしのおもてなしを喜んでいただいています。

講師の熱意と個性に触れて刺激をもらい、いろいろな気付きを与えられて、いつの間にかレベルアップがはかられていることは、感謝なことです。座学と実技を織り混ぜて、主を賛美する歌声に磨きがかかることは、聖歌隊員一人一人の励みでもあり、喜びでもあります。教会の信徒研修は教会の大きな力となり、また教会音楽研修は、礼拝を豊かにしてきました。皆様の教会でも、信徒の学びあいの場を広げられることを、大いにお勧めいたします。

## 点字版『新生讃美歌』 長きにわたるご奉仕に感謝！



『新生讃美歌』の点字版出版のご協力をいただいていた大泉教会の尾崎泰彦さん、尾崎睦さんは、この度その働きを辞されることになりました。亜鉛板に点字の凹凸をつける作業から、2枚組の点字亜鉛板に用紙を挟み、2つのローラーの間に挿入して凹凸をつける作業、本を製本する作業と、一枚一枚、1冊ごとに丁寧に作り上げてこられました。

それは芸術作品といえるほどに美しく、何よりもそのご奉仕の精神から多くを学ばせていただきました。点字プレス機器の前には「人その友のために 己の生命を捨つるこれより大いなる愛はなし」のみ言葉の色紙が置かれていました（写真左下）。夫妻の信仰の基を表わしています。



最近はおנדemandで、注文がある度に1冊（全3巻）ずつ時間をかけて製本して届けてくださっていました。価格は『新生讃美歌』と同額で、多くのボランティアの働きによるものでした。

現在、次の出版所を検討しているところです。賛美を整えるために、このような尊い働きと支えがあることを、あらためて覚え感謝したいと思います。

## 「新しい歌を歌うために」

藤井秀一（花小金井）

『新生讃美歌』には600曲以上の多様な賛美曲が収められています。しかし実際には礼拝において同じ曲が歌われることが多くはないでしょうか。礼拝における賛美曲を選曲するのは、牧師や奏楽者が多いと思いますが、ともすると選曲する人の知っている曲や好みの曲が選ばれがちで、なかなか新しい曲にチャレンジすることは難しいこともあると思います。



さてわたしたちの花小金井教会では、礼拝委員会（牧師ほか2名の委員）において毎月の礼拝プログラム、賛美歌の選曲を行っています。牧師が予め翌月のメッセージの聖書箇所を委員に提示し、それぞれの委員が2週分ずつ担当して、礼拝の賛美曲4曲の案を考えてきて、委員会においてみんなで検討して決めていきます。

その委員会の際には、『新生讃美歌CDROM』とパソコンを用意し、その日の礼拝のテーマに沿った歌詞をもつ賛美歌を検索し、実際に音を出して歌うことで、歌いやすさなども確認します。そのような作業を通して、新しい賛美歌が選ばれた場合は、礼拝開始前に会衆とともに練習の時間をとるようにします。

また曲のすべての節を歌わず、必要な節だけを使うことで、選曲の幅を広げるということもしています。たとえば、礼拝の最後に歌う曲は、これからそれぞれの場に派遣されていくことを意識して、『新生讃美歌』の「派遣」のカテゴリーにある曲のなかから、その日の礼拝テーマに沿った歌詞をもつ曲を自由に選び、その1節だけを歌ったあとに、牧師が「派遣のことばと祝福の祈り」をして礼拝を閉じる流れになっています。

このような礼拝委員会による選曲という方法によって、牧師や奏楽者が選曲するよりも、明らかに選曲の幅は広がります。わたしだけが選曲をしていたら選ばれなかったであろう曲を、委員の方々が候補にあげられ、なぜこの曲を選んだのかを語ってくださるのを聞くことは、牧師として嬉しく、また教えられる時間です。そして実は牧師の私のほうが選曲において保守的であり、信徒の委員の方々のほうが新しい曲に対して積極的であることを知ったのも、この礼拝委員会による選曲での嬉しい発見でした。

実際には、このような方法をとることはなかなか難しいこともあると思います。そうだととしても、ひとりではなく、誰かと一緒に選曲するというだけでも、自分の知らなかった新しい曲との出会いは広がっていくことでしょう。チャレンジしてみませんか。



## 礼拝奏樂の取り組み

### 第12回全国礼拝音楽研修会に初参加されたかたの「その後」の証し 紹介

石渡路子（清水栄光）

清水栄光教会には奏樂者がいないため、『新生讃美歌CDROM』を使用しての礼拝でした。二年前、江原美歌子教会音楽室長から「教会にオルガンがあるなら奏樂してみませんか」と言われました。「奏樂したことはありません」と答える私に、追い打ちをかけるように、「だから、今度礼拝音楽研修会があるから天城山荘にいらっしやい」と、この言葉が決定打となりました。

それから、教会の礼拝に、オルガンを右手だけしか弾けませんでした。奏樂の奉仕を始めました。ところが、そのように奉仕している私の姿を見、奉仕を申し出てくださる方々が現れました。今では、奏樂者が五人となり、『新生讃美歌CDROM』を上手に使い、礼拝の賛美を自分たちの手で作りあげることができるようになりました。――以下、加えられた4名の奏樂者の証しです！

「音楽」は音を楽しむと書きます。私は子どもの頃から歌うことが大好きでした。70歳に手が届く現在も、我が家では日々懐メロや私の鼻歌が聞こえてきます。音楽は人生に寄り添ってくれています。今までも地域のコーラスグループやギターサークルに加わり楽しんでいます。一昨年、石渡路子姉が奏樂にチャレンジする姿に触発され、新たにオルガンに挑戦する気持ちが湧きました。奏樂奉仕者も一気に増え、初心者も気負いなくできそうです。杉山政世

オルガン演奏の経験は全くなく、片手でしか弾けませんが、去年の12月から子ども賛美歌の奏樂を奉仕させていただいています。小さな教会なので、一人が色々な種類の奉仕をする必要がある事情はありますが、自分の得意分野ではないものでも挑戦して、お互いにカバーし合う形がつけられてきたと思います。今は弾くのに必死で、同時に歌うことができませんが、少しずつできることを増やしていきたいと思っています。主の御名を賛美いたします。鈴木俊也

教会は少人数ということもあって奏樂者がいませんでした。石渡さんがひとりで苦勞し、オルガンの奏樂奉仕をしておられました。私自身、奏樂は二十年以上のブランクがあり躊躇していましたが、助けになればと、片手弾きでの奉仕を申し出たところ、ほかにも数名の奉仕者が与えられ、今に至りました。時には失敗しても、教会員の皆さんが声高らかに歌い、カバーしてくれるので、イエスさまも皆で奏でる賛美を喜んでくださっていると思います。

堀千晶



左から三浦洋子さん、石渡路子さん、杉山政世さん、堀千晶さん、鈴木俊也さん。

礼拝で時には3~4人の奏樂者が立たれることもあり、また、会衆賛美が伴奏にあわせて歌うときもあるとか…。『新生讃美歌CDROM』も併用され、賛美を豊かにするために、たくさんの奉仕者が準備して礼拝に臨まれています。

## イースターの賛美歌「この日主イエスは復活された」 訳詞から学ぶ

日本賛美歌学会関東支部会に出席して ♪♪♪♪♪♪♪♪

小林亜矢子(青葉)

2月9日(土)、日本キリスト教団新宿西教会を会場にした日本賛美歌学会関東支部会で、馴染みの賛美歌と改めて出会う経験をしました。『新生讃美歌』241番「この日主イエスは復活された」“The Day of Resurrection”は各派の賛美歌集に少しずつ異なる訳詞で収められています。7~8世紀作とされるギリシア語の詞が19世紀に英語に翻訳され、その際にこの曲と組み合わせられました。それを更に日本語に直して現在、多くの教会で歌っているのです。正教会がギリシア語で歌うメロディーは241番とは全く違うものであることには驚きでした。

直訳を基にいくつかの賛美歌集の訳詞を比較していきしましたが、その中で、『新生讃美歌』の訳詞では、この賛美歌のテーマ「この日」という言葉が冒頭で歌われていること、また、これまで「よみがえり」と訳されていた“resurrection”を、「復活」(ふっかつ)と音読みにしたこと、喜びと力が増えられたこと等があげられ、たくさんの評価をいただきました。241番の訳者は、当時『新生讃美歌』編集実務をされていた藤澤一清氏で、神学、音楽の理解、現代の賛美歌翻訳のチャレンジへの思いなど、深い洞察と様々なご経験に基づいて訳されたことが、同会に参加していた江原美歌子氏より紹介され、改めて熟考された翻訳の尊いお働きに感謝しました。

教派を超えた討論会では、日本語で訳詞を作る際の苦労について、時代の影響と同時に言語面、音楽面、神学面での制約があるとの議論がありました。賛美歌ができるまでには作詞者、作曲者/編曲者のほかに歌集の編集者などがおり、発表された賛美歌が礼拝などで歌われて会衆の心に残っていくまでの過程で多くの人の苦労や思いが重なっていきます。そして1つの賛美歌には詞の来歴のほかに曲の来歴もあるのです。『新生讃美歌』327番「ゆく手をまもる永久の君よ」は241番と同じメロディーで、テーマも雰囲気も全く異なる詞がついていますが、英語圏ではこの組み合わせの方が親しまれ歌われているそうです。さてこの詞の来歴は・・・と考え出すと、眠れないほど楽しくなります。賛美歌の深い世界を覗いてみると、今この歌を歌えることの恵みの深さが見えてきます。

今、私は主の晩餐式の奏楽をさせていただいていますが、右手だけで弾いています。きっかけは石渡路子姉の「弾いてみない?」と言ってくださった一言でした。自分の能力を考えもせずに承諾してしまいました。小学生の時に少しやっただけで何事にも飽きっぽい性格ゆえに途中で挫折してしまいました。思うことはあのときもっとしっかり練習していれば、今、このときを喜んで、神さまへの賛美のご奉仕ができたのではないかと思ってしまうこの頃です。でも、路子姉が「それでもいいよ」と励ましてくださり、また教会の皆さんも心から合わせて歌ってくださることに本当に感謝です。そして、少しでも奉仕のお手伝いができる喜びを感じています。

三浦洋子

## 讃美歌・聖歌懇談会 報告

日本キリスト教団出版局の声掛けによりはじまった「讃美歌・聖歌懇談会」は、1月15日（火）に日本キリスト教団出版局で開催され、5回目を数えます。今回の参加は「改革教会の礼拝と音楽」編集委員、カトリック中央協議会、救世軍、日本聖公会、日本賛美歌学会、日本福音連盟、日本福音ルーテル教会、福音讃美歌協会、日本キリスト教団出版局、日本バプテスト連盟で、毎回、各派の出版や改訂、讃美歌編集に関連する課題や情報交換をしています。その中から、救世軍のこども賛美歌歌集についての発題を中心にご報告します。



救世軍の音楽推進者は江原美果子（えばらみかこ！）さんで、1回目の懇談会ではじめてお会いし、ほぼ同姓同名の者同士、出会いを喜びあいました。発題では、救世軍からこの1月に出版された『こどものうたほん』が紹介されました。こどもの賛美歌集として歌詞とメロディ譜の『救世軍こどもぐんか』（96曲）が1964年に発行され、今日まで用いられてきましたが、日曜学校の賛美を導く先生がたから、「伴奏譜」の発行の要望があったことがきっかけとなり、新たな歌集編纂のために、2008年に「救世軍こども歌集委員会」が発足し、2012年出版をめざして選曲の検討がはじまりました。その後、2011年の東日本大震災があり、また委員（牧師）の異動によって、メンバーの入れ替わりがあったことで、継続した働きの難しさがあり、予定より大幅に遅れましたが、去る1月、待望の発行へと導かれました。

タイトル『こどもぐんか』の言葉の変更にも迫られ、検討の結果、ひらがな4文字の「うたほん」とされ、ここでも「讃美歌のことばの課題」があることが共有されました。ちなみに、大人の使用する歌集は『救世軍 歌集』だそうです。104曲の内、49曲が救世軍の外国曲、オリジナル作詞作曲のもので、ほか、救世軍のブラスバンド伴奏譜が充実していること、イギリスの救世軍発行の賛美歌集には「曲名」のみで収録した歌集があり、ミーターを用いて、曲と詞の入れ替えを行うことが歴史的に継承されてきたことなど、様々な特徴を知ることができました。質疑では「『うたほん』では馴染みの曲の割合が9割と多い」ことが話題になり、賛美歌集として「新曲」と「馴染みの曲」はどのくらいの割合がよいのか？など、編集に関係する方々ならではの話題は大変興味深いものでした。

ほか、『新聖歌』を出版している日本福音連盟からは聖歌委員長の石田学氏が「『聖歌』の過去、現在、未来」と題し、『聖歌』の歴史を紹介しつつ、『聖歌』の改訂と『新聖歌』の刊行までの歴史と課題が発題されました。「11」教団による日本福音連盟が編集・発行する賛美歌集の課題や、将来の賛美歌編纂に関わる人材の先細り、財政的課題、フルタイム担当者の不在の問題等が語られました。

質疑応答の中で、各派共通の賛美歌について、まずは検証することからはじめることが提案されました。次回懇談会ではクリスマスの賛美歌で何が「共通」の歌として歌われているか？等、検証・研究することになり、少しずつではありますが、「共通」歌についての取り組みもこれから始まろうとしています。



# 『新生讃美歌ブックレット』書評紹介

日本キリスト教団出版局の季刊誌『礼拝と音楽』No180の書評で、『新生讃美歌ブックレット』がとりあげられ、すべての信徒に向けて礼拝と賛美がわかりやすく紹介されていることが評価されました。

## ● 読書案内

礼拝におけるうたの意義を  
礼拝で歌う人びとすべてが考えるために

**水野隆一**（関西学院大学神学部教授）

## 『新生讃美歌ブックレット』

日本バプテスト連盟宣教部教会音楽室〔編〕



A5判 / 500円（本体価格）

本書は、日本バプテスト連盟が、その礼拝用歌集『新生讃美歌』について、「参考資料」として編纂したものです。その中でも、「賛美歌」の基礎知識をコンパクトにまとめた「第2章」（40～47頁）、賛美歌の「歌い方」について記した「第3章」（50～61頁）、賛美歌創作の意義について語っている「第4章」（64～71頁）は、礼拝のうたについてぜひとも知っておいて欲しいことが書かれてあり、大いに参考になる資料となっています。

評者にとつてうれしい驚きであったことは、このガイドブックが、歌について、「礼拝のうた」（この表現については、拙稿「礼拝のうたを知る——リテラシーの大切さ」本誌175号をご参照ください）としてのあり方を強く意識している点です。「会衆賛美」を「礼拝の中」のものにとらえ、その意義を「会衆賛美の本身とその方向」という節（15～17頁）にまとめていることは、こう言うてよければ、ノンリタージカルな教会を代表すると考えられているバプテスト教会にとつて、大きな「転換」であるように感じられます。

また、歌うことについて、「音楽」によつて『感情』『情緒』の高まりのみを求めることについては、十分に留意すべきでしょう」と、はつきりと述べられています（19頁）。本書は、礼拝におけるうたの意義を知り、理解して歌うことを強調していて、それは、「礼拝の学び」が

必要であるとの解説によつても、感じる事ができます（20～21頁）。

その中で、言葉への関心が高くなるのは当然のことでしょう。本書の六分の一近くを占める『新生讃美歌』用語解説（74～92頁）では、古い表現、また、「天皇制用語と指摘があるもの」（74頁）についての説明を加えています。さらに、一教会から問われた課題、また、特別委員会から寄せられた課題を掲載した（23～36頁）上で、「不快語・差別語、歌い替えの提案」をしている（36～38頁）ことは（この部分も、本書の六分の一近くを占めています）、『新生讃美歌』を編集し、使用を促進している方々の誠実な姿勢を示しているものと思ひ、見ならなければならぬと感じました（蛇足ですが、各委員会のアンケートの中で、「讃美歌21」あるいは日本キリスト教団出版局発行の小歌集が例として上げられていることを、驚きをもって読みました）。

以上のように、本書は、『新生讃美歌』を礼拝用に使っている会衆以外にとつても、知り、考えて欲しいことが記されており、礼拝で歌う人びとすべてに有益な書物となっています。礼拝のうたに関心のある方にぜひ読んでいただきたいと思ひます。

（みずの・りゅういち）

# 新生讃美歌ブックレットを用いた研修会

## 東北連合音楽研修会の恵み

青山 祐一（山形）

### 『讃美は礼拝、礼拝は讃美』

11月3日(土)10:30～15:00に、青森県八戸市にある鮫バプテスト教会を会場にして、「会衆讃美」についての研修会が開催されました。

『礼拝と讃美を豊かに献げるために～新生讃美歌ブックレットを用いて～』と題された集会は、昨年7月に発行された『新生讃美歌ブックレット』を使用して、私たちがいつも使用している『新生讃美歌』を学び、礼拝の中で皆と一緒に歌う「会衆讃美」を一緒に考える研修会です。

聖書には神に対しての喜び、感謝、願い、祈りなどの歌も記されていますが、一方で嘆き、悲しみ、呻き、苦しみの歌なども載っています。

今では礼拝の中で讃美歌を歌う姿は当たり前になっていますが、皆が声を揃えて歌うことができるようになったのは、約500年前からのことです。それまでは、会衆は歌うことが許されず、聖歌隊などの専門家のみが歌っていました。しかし、宗教改革以降は、讃美が私たちの歌となっていったのです。そして、私たちが使用している『新生讃美歌』は2003年に発行され、682曲が収められています。

午前中の講演では、上記にあるような「会衆讃美の変遷」の他、「新生讃美歌の特徴」などを学び、特に讃美歌の歌詞、ことばを一緒に考えました。讃美歌には、古くから使われている日本語がそのまま採用されているものが多くあります。

編纂を重ねる中で、わかりやすい言葉に置き換えられていくものもありますが、「日本語の美しさ」「わかりやすさ」の狭間で、また心地良いメロディーに動かされ、意味もよくわからないで散漫に歌ってしまう讃美歌があるのも事実です。

今回、歌詞、ことばの意味を確認して、改めてどのような讃美歌なのかを考え、また、歌詞やことばに潜む問題なども一緒に分かち合うとともに、歌うことは「礼拝」であり、「神への応答」であることも一緒に確認しました。

午後には、準備運動や発声練習で声を整え、各時代を代表する讃美歌や作詞者、作曲者を意識しながら、実際に歌ってみました。

よく歌い、耳にも馴染んでいるもの、20世紀後半に作詞、作曲された新しいもの、ある曲の歌詞を別の讃美歌の曲(メロディー)に合わせて歌うものなど、新しい、ユニークな体験もありましたが、讃美歌を歌いながら、讃美の奥行きの高さ、おもしろさなどにも気が付くことができました。

集会終了後に、参加者からは、「初めて、教会音楽の話聞いた。」「ただ単に歌っているだけだったけど、讃美歌のことばを考えるきっかけになった。」「発声方法を教えてもらったから、声が出やすくなった。」「音楽もしないし、音楽も詳しくないので、参加して良いのかなと思ったけど、参加してとても良かった。」「讃美はもっと自由で、讃美歌はいろいろな見方、使い方があることを知った。」などの声が寄せられ、それぞれに新たな発見、気づきがあったようです。

5教会15名の参加者でしたが、温かい雰囲気の中で、ともに学び、ともに主を讃美の歌声を献げるときとなりました。





## 讃美歌の「ことば」の意識化から

武 章子（上尾）

教会の礼拝委員会で約3ヶ月分を目安に、礼拝のプログラムを決めています。昨年末、毎年2・3月の「スチュワードシップ月間」にあたり、讃美歌を選曲中、656番「きみの賜物と」が挙がりました。ふと委員の一人から「若い力」って何だろう。年齢的なものだけではなくても、さらっと歌ってしまうとやっぱり年齢的な印象しか残らないと言う声。長く慣れ親しみ、励まされてきた讃美歌ですが、自分が高齢になった時に同じ気持ちで讃美できるかとひっかかりました。「若い」に代わる言葉を探しましたが納得のいくものは見つからず、今回は他の讃美歌を選ぶに至りました。「若い」に代わる言葉は摸索中です。

武さんは昨年『『新生讃美歌ブックレット』を用いた研修会』を北関東連合で計画してくださった方です。ことばの課題について、早速、教会の中でも取りくまれているとのご報告を受け、改めて歌詞について考えるきっかけをいただきました。

### 新生讃美歌656番 「きみの賜物と」の原詞と直訳は？

<b>Give of your best to the Master;</b>	あなたの最善を主に捧げなさい
<b>Give of the strength of your youth.</b>	あなたの若さの力を捧げなさい
<b>Throw your soul's fresh, glowing ardor</b>	熱心さを育みつつ
<b>Into the battle for truth.</b>	真実のための闘いへとあたなの新たな魂を投じなさい
<b>Jesus has set the example,</b>	キリストは例となられました
<b>Dauntless was He, young and brave.</b>	彼は力強く、若く、勇敢なるかたです
<b>Give Him your loyal devotion;</b>	あなたの忠実な献身を捧げなさい
<b>Give Him the best that you have.</b>	あなたにある最善を捧げなさい

#### *Refrain*

<b><i>Give of your best to the Master;</i></b>	あなたの最善を主に捧げなさい
<b><i>Give of the strength of your youth.</i></b>	あなたの若さの力を捧げなさい
<b><i>Clad in salvation's full armor,</i></b>	救いの武具を身に着け
<b><i>Join in the battle for truth.</i></b>	真実のための闘いに加わりなさい

作者について：ハワード・B・グロース（1851-1939）は、ニューヨーク出身のバプテストの牧師で、牧会后は、シカゴ大学で教鞭をとる傍ら、1896年以降はバプテスト関係の編集に従事するなど、働きは多岐にわたっています（『讃美歌21略解』参照）。この讃美歌は『バプテスト・ヒムナル』（1957）では採用されましたが、1975年以降の南部バプテスト連盟の歌集では掲載されていません。

声を受けて――「若い力」の原歌詞は“the strength of your youth”とあり、「あなたの若さの力」と直訳できます。年齢を重ねても「若さ」「力」はどの人にも備えられています。一方で、作詞された時代背景や、この讃美歌の対象とするものは何か？など、現代において歌うとき、表現に偏りを感じるかたもいらっしゃるかもしれません。『讃美歌21』では訳が少し改訂されました。1節の「友よ勇み立ち」が「ためらわずに行け」となり、「勇み」という言葉が使用されていないこと、「力」が平仮名で「ちから」と表されているなど、この時代にあって、讃美歌を歌うための様々な試みが見られます。「さらっと歌ってしまう」と、武さんの投げかけにもありますが、「アーメン」と心からの讃美を歌うために、教会内の学びあいと対話は、今後大切にされていくプロセスとなっていくのではないのでしょうか。

## 『新生讃美歌ブックレット』を用いた研修会のオススメ

ブックレット発行後より、北関東連合、東北連合、2月には神奈川連合で『新生讃美歌ブックレット』を用いた研修会を開催し（以下報告）、参加者がブックレットを手にしながら、一つ一つを学んでいます。また歌い方の工夫では、実際に歌いながら楽しい時間を過ごしています。宣教部教会音楽室では、このために研修会開催補助費をあてて支援しています。連合単位だけでなく、2つ3つの教会が集まって、研修会を開催することもできます。詳しい内容は、教会音楽室までお問い合わせください。

### 『新生讃美歌ブックレット』を用いた研修会の恵み

白井由季子（百合丘）

神奈川バプテスト連合、連盟宣教部教会音楽室の共催で、2/9(土)降雪の予報の中、相模中央キリスト教会にて「礼拝音楽研修会」が行われました。講師は連盟教会音楽室長の江原美歌子先生。50名弱の参加者が共に礼拝音楽について、楽しく深く学ぶことができましたこと、心から感謝致します。

昨年7月に発行されたばかりのブックレットを、質問形式でのレジメに沿って、参加者もそれぞれに考えながらお話を傾けました。中でも会衆讃美の歴史、367年（ラオデキア教会会議）から1150年間も、賛美は司祭や聖歌隊の働きに限定され、会衆讃美は禁止されていたこと、その間にキャロルなどの大衆の中での賛美が広まったことを知りました。確かにキャロルは、開放感のある曲が多いと感じていたことに通じ、制限された中でも精一杯の喜びの賛美が捧げられたことに想いを馳せました。マルチン・ルターの宗教改革から、会衆賛美が豊かになっていったことが解り、礼拝は「啓示と応答の対話によってつくられ、賛美はその対話を促し助ける働き」であることを学びました。アーメン付与についての歴史も興味深かったです。



実践では、かけあい、輪唱、ボディーパーカッション等工夫して歌う讃美歌の紹介、言葉の言い換え、ミーターの意味など、盛りだくさんで有意義な時間でした。実践は教会に持ち帰り、早速試みてみたいと思われました。大変恵まれた研修でした。近くで研修会が開催される場合は、ぜひ皆様ご参加ください！礼拝音楽がさらに豊かになりますように。

←百合丘教会からは4名が参加、中央が白井さん。

## 『新生讃美歌ブックレット』『新生讃美歌ハンドブック』好評発売中！

昨夏1000部発行した『新生讃美歌ブックレット』は1月末で完売！2月に400冊を増刷し、好評のうちに用いられています。広く信徒の皆様にご購入、活用していただきたく、500円と安価で提供しています。また、2012年に発行した『新生讃美歌ハンドブック』とセットで購入される場合、通常1,500円のところを、1,200円で購入することができます。この機会にどうぞ、お求めください。

相模中央教会の祈禱会の司会は信徒が担当し、開会の讃美歌も選曲しています。先日は星野三枝さん（写真）が、『新生讃美歌ハンドブック』を活用して、『新生讃美歌』436番「朝つとに目覚めて」を選ばれました。この曲は姉妹である志村博子さんと田中道子さんによる創作で、祈りの人であった母の姿を思い起こしながら作られたことなど、作者による証しが紹介されたことで、讃美歌がより近く感じられ、心からの祈りの讃美が導かれました。

